

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 1月 15日

事業所名 福祉ルームみらい原

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			法令を遵守したスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	△			法令は遵守している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	△		建物上難しいが物の配置など工夫している	階段に手すりがあるが、玄関や部屋のしきりに段差が多い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			支援については常に話し合いミーティングで振り返りをし、それを踏まえてより良い支援に繋げている。支援目標の見直しをし、業務の改善をすすめている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている				保護者より要望があれば対応していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			H.Pに掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修を定期的におこなっている。	外部研修・社内研修をしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		送迎時、保護者とのコミュニケーションの中から課題やニーズを	年に1度のアセスメントを行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントツールを標準化して使用。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			支援会議等行い話し合っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			固定化しないように新しく情報を取り入れ改善に努めていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		常に児童が興味を持ってとりくめるよう工夫している。	利用時間に応じて活動内容を大きく変えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			一人一人その日の状況に応じて柔軟に対応している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝のミーティングで打ち合わせをし情報共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終礼で児童の様子支援の方法などを振り返り次に活かしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々、きちんとその日の記録がとれるようにしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			半年に1度モニタリングを行い、日々成長し変化する子どもに合わせて計画を見直している。一度に行える児童数が限られるため頻回に行えるように今後努めていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			管理者・児童発達支援管理責任者が参加している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			送迎時に児童の様子を聞いたり、情報共有はできている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			医療ケア児童は、いないが、万が一の際すぐに対応出来る看護師が近くのグループ事業所に常駐している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関の助言を受け、研修してもらっている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		△		公園などで一緒に遊ぶ機会がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や電話、送迎時に、子どもの様子を伝え課題について情報共有している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		定期的に社内研修で行っているが事業所内でも行って行きたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			運営規定、利用者負担については契約時に説明するとともに事業所内に重要事項説明書を掲示している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			保護者の話をきいて、共感し、一緒に子どもの成長のために考えている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ感染が落ち着いたら検討したい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情があった場合は直ぐに職員間で情報を共有し、原因などについて話し合い、対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月活動や支援の内容が分かるように会報や予定表をだしている。児童用カレンダーも作り利用してもらっている。
	35	個人情報に十分注意している	○			個人情報については説明し、保護者に同意捺印していただいている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			児童にはそれぞれに合った方法で、保護者には連絡ノートや、電話などでコミュニケーションを取っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			近くの老人ホームを行事の時に招待したりしていたが、コロナウイルスにより実行できていない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練を年に2回行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			必ず研修を受けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束については、研修を受け、職員みんなが周知している。保護者の方にも説明し、サインをいただいている
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			小さいことから、必ず作成するようにして職員全員で周知して、改善に努めている。